ブロック別の動向

前月と比べたDI値の動き　↗ 改善　→ ほぼ横ばい　↘ 悪化

北海道

北海道は、悪化。サービス業では、エネルギー価格の高止まりに伴う輸送コストの上昇を背景に、運送業を中心に売上が悪化した。建設業では、一部資材の価格高騰や納期遅延が続き、土木工事を中心に売上が悪化した。電気工事関係の事業者からは、短納期・低単価の案件が増え、従来の工程管理に加えて資材在庫の確保負担が増し、現場の業務負荷が高まっている、との声が聞かれた。

東北

東北は、改善。卸売業では、設備投資需要が堅調に推移しており、機械器具卸売業などを中心に売上・採算が改善した。サービス業では、夏のボーナス支給や観光需要の回復が下支えとなり、旅館業や飲食店を中心に売上・採算が改善した。飲食店からは、客数の回復に加え、客単価の上昇や地域イベント開催による来店客数の増加が追い風となり、売上が堅調である、との声が聞かれた。

北陸信越

北陸信越は、改善。製造業では、半導体需要の拡大を受け、金属製品関連を中心に売上・採算が改善した。能登地域の事業者からは、被災建屋を補助金で修繕し、最新設備を導入した工場の新設を予定しており、今後の生産性向上が期待される、との声が聞かれた。小売業では、自治体の物価高対策の効果で、商店街等で客数が増加し売上・採算が改善した。

関東

関東は、悪化。建設業では、ナフサ由来資材の納期遅延や調達難が続き、売上・採算が悪化した。卸売業では、エネルギー価格の高騰が物流コストを押し上げ、飲食料品関係で売上・採算が悪化した。食品卸売の事業者からは、包装材の在庫不足で代替案を模索しているが、かつお節のように風味維持のために特殊フィルムが必要な商品は容易に代替できず、品質確保とコスト管理の両面で課題が残る、との声が聞かれた。

東海

東海は、改善。製造業では、気温上昇に伴う夏物衣料の需要増加が追い風となり、繊維工業を中心に売上・採算が改善した。金属製品製造の事業者からは、AI向け半導体関連の需要拡大で受注が増え、業績が堅調である、との声が聞かれた。建設業では、公共工事や設備投資が下支えとなり、売上が改善した。一方、事業者からは価格転嫁を進めているものの資材価格の急激な上昇が採算を圧迫している、との声も聞かれた。

関西

関西は、悪化。サービス業では、相次ぐ値上げに伴う消費者の節約志向の高まりから外食需要が低迷し、飲食店を中心に売上が悪化した。製造業では、資材価格の高騰が続き、鉄鋼業を中心に売上・採算が悪化した。繊維機械製造の事業者からは、大幅な円安と資材価格高騰を受けて価格転嫁を進めているものの、転嫁分を上回る経費の増加により採算が圧迫され、今後の先行きは不透明感が強い、との声が聞かれた。